

# カナダの先住民文化保護運動が示す多文化主義の課題

森田汐音 (国際総合学類)

## 1. 導入

多文化主義 (辞書の定義、ブリタニカ国際大百科事典)  
「様々な人種、民族、階層がそれぞれの独自性を保ちながら、他者のそれ  
も積極的に容認し共存していこうとする考え方、立場」

主流社会が選択する多文化主義から、  
より対等な相互理解を期した多文化  
主義へ

「同化主義」に対抗する文脈で登場

主流社会が選択する多文化主義には限界があるため

## 2. 事例

[大山万里子 2009]  
[瀧美一弥 2015]



<https://vancouver.ca/parks-recreation-culture/totems-and-first-nations-art.aspx> (バンクーバー市役所HP)

### 〈概要〉

カナダ/ブリティッシュ・コロンビア州

#### 先住民の母語・芸術保護運動

- 先住民の教育権、学校  
母語・芸術教育←国や州による資金援助
- 公共施設での先住民アート展示

### 〈結果〉

- センチョッセン語 (母語) 教師としての雇用
- 伝統的アート作品を制作・販売  
→安定した収入の確保へ

[瀧美2016] はBC州に  
おける先住民言語・芸術  
保護運動の中でも  
サーニッチに注目して  
分析している

多文化主義は母語や芸術の保護運動を通して少数民族の  
文化的アイデンティティや生きる基盤の確保に寄与するとともに、  
雇用やアートの需要によって彼らの経済的自立を促した。

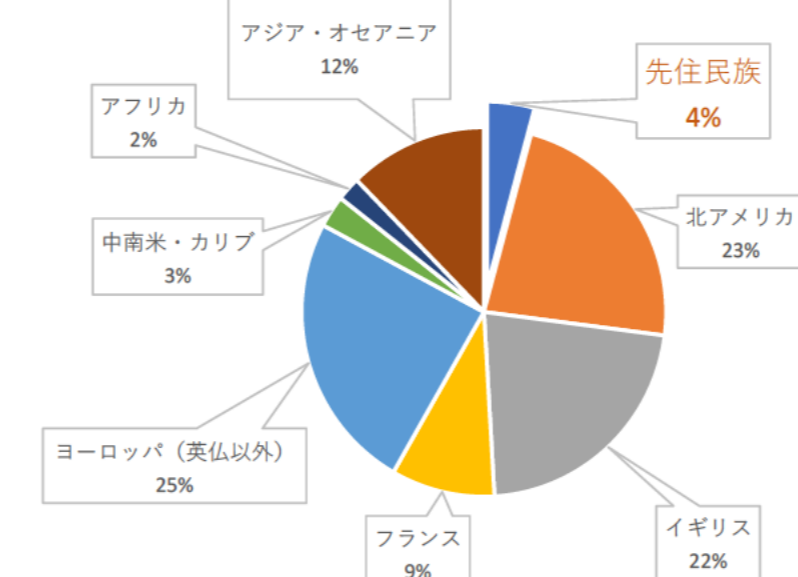
### 〈問題点〉

一方、同論文においてこれらによって先住民社会に分断や格差が  
生まれたことは問題点として指摘されている。

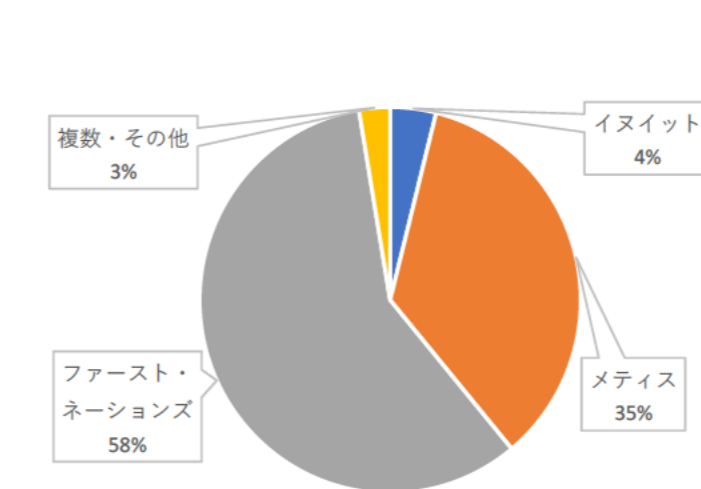
この分断と格差こそが先住民の言語・芸術保護運動の問題  
点を通して多文化主義の限界をも表す。論文(瀧美2016)で指摘  
されている分断や格差を多文化主義の限界という観点から分  
析していく

### 〈背景〉

カナダ (全3500万人)



先住民 (全170万人)



2016年カナダ統計局国勢調査より

先住民の言語は60以上!

BC州の先住民は約27万人  
(国内2位)

- 1870年頃：先住民同化政策  
(伝統的生活習慣禁止、寄宿学校同化教育など)  
→文化の喪失・伝承の断絶の危機
- 19世紀後半：同化教育への反発、  
教育自治権獲得運動、国の多文化主義政策への転換  
→先住民学校区の設定  
(独立学校法、ファーストネーション教育法)

- 先住民言語が母語である  
者は全人口のうち  
約0.056% (195,700人)
- 先住民言語を話すことが  
できる者は全人口のうち  
約0.07% (263,840人)
- 先住民のなかで先住民  
言語を話すことのできる  
者は約16%

2016年カナダ統計局国勢調査より

※文化復興の必要性の認識についての留保

「1970年及び1971年のエリザベス女王によるカナダ、BC州訪問前後に、  
エリザベス女王をカナダに迎えるに際し、「カナダらしさ」を  
表現する必要性が生じた」(瀧美2015)  
=主流社会との関わり

「主流社会と先住民社会が地域のシンボルを生み出すという共通目的  
のもとで協力関係を築きつつあるという多文化主義政策の肯定的側面」  
(同2016)か、主流社会による「つくられた伝統」の一時的な利用か  
(少数文化の価値づけを行う主体はどこにあるのか?)

## 3. 多文化主義の限界

### ① 支配的文化的嗜好

指摘：同じ民族の伝統であっても経済的資源に  
変換されないダンスなどの担い手は教師や  
芸術家と同じ恩恵を受けることはできない。  
=無収入、福祉に依存、格差

示唆：ハージ『ホワイト・ネイション』2003  
「白人オーストラリア人がこの多様性を  
管理する能力を発揮するという  
ホワイト・ネイションの幻想」  
「白人オーストラリア人が関心を寄せる  
限りにおいては、移民文化の価値やそれを  
保存することの妥当性は、諸文化を豊かに  
する機能のうちにある。」

多文化社会において少数文化を価値づけ、  
管理する主体性は支配的文化にある。

「伝統文化」として価値づけられるもの  
はセンチョッセン語とトーテム・ポール  
をはじめとするアートのみ。格差とは、  
主流文化が嗜好する文化要素をもつもの  
とそうでない者の差。

限界 主流社会の好む形でしか社会へのアクセ  
スや経済的自立を実現できない

### ② 文化の本質化

指摘：センチョッセン語の学習に熱心に取り込  
めない子ども達の間で新たな問題が生じ  
始める(落ちこぼれとなり、荒んだ生活)

示唆：ヤング『排除型社会』2007  
「多文化主義においては様々な文化には  
歴史的に形成された本質的特徴があると  
みなされる」

多文化主義は文化の本質化を伴う  
先住民サーニッチはみなセンチョッセン語  
を話せる/話せるようになる、またはそれを望  
んでいるという本質化が問題の背景にある。  
そして、当てはまらない人が生まれている状  
況への対応が困難になっている。

(補足)「先住民の現代アーティストたちは新  
たな素材を採用したり、新たなメディアに自ら  
の作品を載せたりしているが、主流社会の一部  
にはこの姿勢を「伝統」を捨てたとして非難す  
るものが現れる」(同)という一文  
=本質化の過程、保持者による変更の不可能性

限界 文化の本質化を伴うため、  
内部の差異や例外に対応できない  
変化や選択の自由を奪うことにもなり得る

### ③ 内部のミクロな問題

指摘：貴族身分と奴隷身分という伝統社会の階層  
が伝統文化を継承する資格の問題として残  
存しており、それが多文化主義政策の影響  
下に経済的格差を生み出している  
(上位階層中心の伝統継承・復興、身分に  
よる暮らしの差)

一律に「先住民」と見なされる集団の内部  
にも差異や問題がある。しかし、多文化主  
義は文化をあくまで集団単位で保持してい  
こうとするものであり、その内部の問題や  
個人の問題の解決には必ずしも至らない。

限界 集団単位の見方であるため、文化集団内部  
のミクロな問題に対応していくのが難しい

※以上のような集団内部の問題などに対して「彼らの  
文化のひとつ」と言ってしまうこともできる。  
しかし、

ビビー『モザイクの狂気』2001  
「多様な選択を正当化する過程で、それは、可能なも  
のの中から最良の選択を探る上での邪魔になることがあ  
る。(略)我々は個人としても、国家としても最善を  
追い求めなくなる。我々は、個人的には、いろいろな  
視点があることで満足し、国家的には、共存できれば  
良いとする」

多文化主義の名のもとに多様な状況を全て「文化の  
ひとつ」と正当化してしまうような態度は、私たち  
に最善の追求を放棄させている。  
より良い社会のためには多文化主義の下でも思考停  
止することなく対話によって最善を追求していくこ  
とが重要。

カナダでは、先住民などから伝統的生活様式や文化的アイデンティティを奪った同化  
主義に対して、多文化主義はその保持を可能にし自立も後押しした。  
しかし、現状では①主流社会が好む形でしか社会へのアクセスや経済的自立を達成で  
きない②文化の本質化を促すため例外や変容に対応できない③文化集団内部の個人ま  
では視点が及ばないため内部のミクロな問題解決には及ばないなどの限界がある。  
これらの限界を乗り越え、より良い社会をつくるためには①多文化主義があく  
まで主流社会主導のものである状況や、②私たちが多文化主義・尊重といった言葉の  
もとに思考を停止している状況を見直し、より対等な対話や相互理解を期した多文化  
主義を実践していくべきである。

参考  
FullCity/Vancouver. (日付不明). First Nations art and totem poles. 参照先: City of Vancouver. <https://vancouver.ca/parks-recreation-culture/totems-and-first-nations-art.aspx>  
Statistics Canada. (2016). Census of Population. 参照先: Statistics Canada: Canada's national statistical agency. <https://www150.statcan.gc.ca/en-us/recreation/index-eng.htm>  
グッドマン・ヤング (2007). 『排除型社会—後期近代における犯罪・雇用・差別』. 法政大学出版局.  
ジョック・ヤング (2007). 『排除型社会—後期近代における犯罪・雇用・差別』. 法政大学出版局.  
シジナルド・W・ビビー (2001). 『モザイクの狂気』. 株式会社法政大学出版局.  
瀧美一弥 (2015). 文化・言語復興運動の歴史変遷—カナダ・サーニッチにおける文化・言語復興運動の新しい世代について. 『国際教育』, 21, 214-220.  
瀧美一弥 (2016). 多文化主義という暴力—カナダ先住民サーニッチにおける言語復興、アート復興、そして格差. 『文化人類学』, 81(3), 504-521.  
大山万里子 (2009). カナダにおける先住民教育政策—ブリティッシュ・コロンビア州のファースト・ネーション—. 『龍谷大学経済学論集』, 4(9), 239-254.